

3月31日(日)



本まぐろ、ミナミまぐろ、ビンチヨウまぐろの食べ比べ

まぐろし

1パック

1,500円 (税込)

 西田鮮魚店 ☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

今週は何かと鮪と御縁が。まず最初の鮪話です。奥原主任が今週の広告、ビンチヨウ鮪を売りたい!と言ってくれ、なぜ?ビンチヨウ鮪?と思つてた所、どうやら鮪業者さんに美味しいビンチヨウの食べ方を聞いたみたいで、大根おろしにポン酢を和えて食べたらめっちゃくちゃ美味しんよ!と嬉しそうに教えてくれました。早速試してみたら、あっさりした味わいでパクパクいける!!

でもビンチヨウ鮪だけだと面白く無いなあ...と更に考えていた時、視察で静岡へ行く事に。何件か魚屋を回ったところ、やたら本鮪やミナミ鮪が陳列されていたのです。寿司コーナーを見てみると鮪づくしが並んでいて色鮮やかで美味しそう。あつ!うちならもつと出来る!!って勝手に1人で思い鮪づくしをしよう!ってなり、皆、バタバタ(笑)。

しかしながら慣れたのでしょうか?皆、いつもの事かのように手際良く段取りし広告作り完成!!内心、申し訳ない気持ちでしたが、表には見せず文面にて謝罪(笑)。

今回、本鮪、ミナミ鮪山芋のせ、ビンチヨウ鮪おろしポン酢、ネギトロ巻き、鉄火巻きの最高な鮪づくしを皆様にお届けします。

それぞれ味わえる鮪づくしを是非食べてください。スタッフ一同お待ちしております!

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

# 『治らんかったらどうしよう』

## 坐骨神経痛

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



足が痛くて…。正確にはお尻から太腿。にがるのだ。痛い、というよりにがるのだ。右側の尻が、にがって歩けんのだ。悦子が言った。「坐骨神経痛じゃないん?」。「坐骨神経痛? そじやる」

もちろん名前前は知っていた。知ってはいたが、どんなものかは知らなかった。スマホで調べた。

腰のあたりから足に伸びる坐骨神経というものがあってその神経に沿って尻から脚の後ろや外側にかけて起こる痛みやしびれの総称だそう。要椎椎間板ヘルニアなんか原因になるとか。症状はびったりあう。

そうか、去年の暮れから正月にかけてぎっくり腰に苦しんだ。

去年の12月13日。筋トレした。最初に60kgのバーベルを肩に担いでスクワットをした。60kgは私にはちよつと重い、といつてムリな重さでもない。担いで、腰を下ろす。やっぱ重い。なんとか立ちあがる。そのとき、腰にグツとくるものがあった。やっぱり止めとこう。バーベルを50kgにした。これくらいなら大丈夫だ。10回を3セットした。それからベンチプレス、ダンベルフライなんかのいつもの種目を1時間ほどこなした。大丈夫だった。

しかし、翌朝起きたとき、なんか腰が…。でも、それほどでもなかったし、その後も、6kg、7kgのウオーキングもしたし、筋トレもした。違和感があったが、まあ、これくらいなら。

1月4日(木)12時。商工会議所の互礼会に行った。立食だ。140〜150人くらいの参加者だったろう。あちらで一杯、こちらで一杯。飲むほどに愉快になり、あつという間に2時間たった。腰に異変はない。ここで帰ればいいものを。松田さんに誘われた。すでに酔って勢いがついている。喜んで誘いのつた。3軒ほどはしごした。もう、このころは酔いも絶頂だ。松田さんは歌がうまい。ハワイで仕事していただけあってポップ系を歌わせたらさすがだ。途中、松田さんが無理やり誘った矢吹さんもうまい。こちらは演歌だ。私の好きな杉本正人を歌ってくれた。聞かせる。つられて私も歌った。残念だが音が外れる。でも、そんなこと気にもならない。完全に酔っている。

矢吹さんは酒を飲まない。運転して家まで送ってくれた。酔っていて気にしなかったが、このころは、もう腰が痛かったような気がする。家に着いたとき、ホツとした覚えがある。帰ったら12時近かった。10時間以上呑んでいたことになる。これが悪かった。

翌朝、1月5日(金)。起きられない。腰が…。どうやったら起きることができるといふ。力をどこに入れればいいんじやる。ここから悪夢が始まった。痛くて、痛くて、身動きできない。今までも、何度かぎっくり腰をやったが、これほど痛くなったことはない。困ったのはトイレだ。多少、頻尿の気がある私は、トイレに立つ回数が多い。痛みに耐えてなんとか起き上がる。壁に手をかけ、唸りながらそろそろと。一方で、ぎりぎりまで我慢していた尿意が私を襲う。急がなければ…。でも歩けない。「漏れる、漏れる。」と言いつつ、やっと辿りつく。トイレまでの5メートルがこんなに辛いとは。

1月6日(土)。生れて初めて整骨院に行った。私は70年間、一度もマッサージなるものをしていない。くすぐったいのだ。くすぐたくて我慢できない。しかし、そんなこと言ってる場合じゃない。整体に行こう。悦子の肩に手をおいて行った。車の乗り降りが地獄だった。帰りには杖を貸してもらった。しかし、痛みは治まらない。

1月7日(日)発症して3日目。日赤の救急外来に行くことにした。この日、悪いことに悦子も熱を出して、私の付添どころではない。仕方なく近くに住む娘の桃子に応援を要請した。婿の学君と2人ですぐ来てくれた。学君は救急隊員だ。私を抱きかかえてくれた。さすがは、救急隊員、その抱きかかえ方がうまい。よかった。消防署員と結婚してくれて。

丁度その日の宿直が整形外科の先生で、とりあえず、痛みを抑え

るようにと『ロキソニン』を出してもらえた。これが効いた。うそのように痛みが消えた。もちろん、時間がたてば痛みは戻る。しかし、とにかく動けるようになった。「ロキソニンはすごい」。心の底から、そう言った。

そうはいつても、しばらく痛みは残り整骨院にも通った。ロキソニンの世話になりながら。

14日(日)、秀ちゃんから電話があった。実は、こうこうで腰が痛いんじや、と話す、「すぐ行くから待って」と言う。しばらくして来てくれた。私を立たせ、楽にするように言った。「頭から気を入れる」と言う。私の背に手をあて、「ふっ、ふっ」と宇宙エネルギーを送る。光が脊椎をとおりに腰に到達し患部を癒すのだそう。10分くらい続けた。「楽になったじやる」。私は思わず「うん」と答えた。『氣功』だそう。たいした奴だ。

このころから、ロキソニンは飲まなくなった。まだ少し痛かったが、ロキソニンを飲むほどではなくなった。2月になるとふつうの生活にもどった。5kg走ったり、8kg歩いたりもした。ところが2月20日(火)。事態は一変した。

この日、倉庫の整理をすることにして、新鮮市場の西浦さんと長崎さんに手伝ってくれるよう頼んでいた。倉庫には、古い書類や伝票が積み上げられていた。段ボール箱に、ぎっしり。紙は信じられないほどに重い。しかも半端な量ではない。結果的に3トントラック2台分になった。これを3人で処分しようというのだ。

2人が来る前に、すぐトラックに積めるように表に出しておこう。そう思ってたが、100箱以上出していたら。その時点で、だぶくたぶれていた。10時すぎに来てくれた2人は24才だったか。とにかく元氣だ。西浦さんはがっしりと力持ち、長崎さんは身が軽い、ほとんど小走りで箱を運ぶ。

1階はすんだ。問題は2階だ。階段が狭くて、運びにくい。よく上げたな。しかも女子ばかりで

窓から降ろすことにした。2階の窓の前にトラックをつけ、身の軽い長崎さんがトラックの荷台の屋根に乗る。西浦さんが2階の部屋から窓越しに長崎さんに渡す。背の高い私が荷台の前に台を置き、そこに立ち、長崎さんから受け取りトラックに積み込む。私に渡すとき、長崎さんはトラックの屋根から降り出すようにして私に渡さなくてはいけない。いかに身が軽いとはいえ、バランスがとりにくい。恐ろしかった。私といえば、受け取った箱を荷台の前の方に移さなければいけない。それまでに、すでにへろへろだった私は、さすがに音をあげた。すると2人がビクトリーの前で奥原さんの車を見たという。「呼びましようか?」「頼む、呼んでくれ」。もう限界だ。しばらくして、怪力を誇る奥原さんが来てくれた。お父さんを病院に連れて来たのだそう。パチンコではなかった。彼が、トラックの中に入れてくれた。楽になった。彼らのおかげで、なんとかすんだ。

そのあと、隣の『もんだにや』でランチしようとしたが、お客さんがいっぱい、おまけにご飯が売り切れたと言う。すごいな…。市役所前の『風籠』で食べた。

翌日、腰も痛かったが、今まで経験したことのない痛みが、足や尻にはしつた。坐骨神経痛だ。1ヶ月以上経つが痛みは治まらない。余っていた『ロキソニン』でなんとかしのいでいたが、『ロキソニン』もなくなった。日赤に行った。4月1日(月)にMRIをとることにしている。

「坐骨神経痛は治らんらしいよ」悦子が言った。「うそじやる。どうしよう。治らんかったら。」



2024年3月31日